

奈良市がフランスで大和茶と日本酒を PR !!

パリ事務所

■パリで歴史ある奈良市の茶と酒を PR

2015 年 3 月 23 日 (月)、奈良市がパリで同市のお茶と日本酒の PR を行いました。

仲川げん市長が自ら、茶や酒の販売業者の方々と共にパリ入りし、街の中心にある証券取引所であった由緒ある会場で、商談会及びレセプションを開催されました。



会場は 19 世紀の壮麗な建築物

クレアパリは、会場選定や在仏日系機関との調整などの段階で依頼をいただき、アドバイスさせていただく形で活動支援をさせていただきました。

■華やかなゲストも登場

レセプションはまず第 1 部として、奈良出身で、世界的な映画監督となった今でも奈良に拠点を置き活動を続ける河瀬直美さんが特別ゲストとして参加され、仲川市長と奈良の魅力についてトークが繰り広げられました。

続いて鈴木駐フランス日本国特命全権大使が挨拶をされ、この後 Stephane Ferrandez さんが茶と酒をテーマにフランス語で落語を披露しました。



「奈良には本物がたくさんあります！」と河瀬監督

第 2 部は、いよいよ奈良のお茶と日本酒の試飲ということで、市長からの挨拶そして当事務所荒井所長の乾杯に続き、販売業者の方がそれぞれブースを設けて招待客にお茶や酒をふるまいました。それと同時にバーコーナーでは、世界的な大会で受賞経験のある奈良ホテルのバーテンダー宮崎剛志氏が、お茶や酒をアレンジしたカクテルをサービスしました。

市の担当の方の話によると、80 名程度と見込まれていた参加者は、関心の高さから最終的には 100 名を超えるという盛況ぶりでした。

なお、今回来仏された事業者の方に、レセプションの前に行われた商談会の手ごたえを伺うと、「みな非常に関心が高かった」「近々パリで当社の商品が店頭に並びそう」などという声が返ってきました。

■姉妹都市でも PR

また翌日は、パリ近郊のヴェルサイユ市（奈良市と姉妹都市）で行われている一番活気のあるマルシェ（市場）で、今度は同市の市民の方々に奈良のお茶と日本酒を PR しました。

ヴェルサイユ市は宮殿があまりにも有名ですが、富裕層が多く住む町として有名でもあり、平日にもかかわらず、新しいものに興味津々の買い物客の方々が続々と奈良市ブースを訪れました。

開催中、同市のフランソワ・ドゥ・マジエール市長も仲川市長の案内のもと奈良市のブースを見学されました。

■改めて姉妹都市交流を重要視

実は、両市は 1986 年以降姉妹都市であるものの最近が目立った活動はなかったのですが、この日の朝に両市長の間で会談が開かれ、改めて交流を活発化させることが確認されたとのことでした。

■心強い応援も受けて

ちなみにこのマルシェには、多くの在仏日本人の方々がフランス人の友人を連れてきてくださり、さらには率先して道行く人を奈良市のブースに呼び込むなどされていました。また、奈良市とヴェルサイユ市が姉妹都市になるきっかけを作られた日本人の方もお見えになり、奈良市の活動を温かく見守られていました。

自治体間の交流も、市民の方々の理解・支援があってこそだと改めて感じました。

奈良市の担当の方は「今回のパリ及びヴェルサイユでの PR の結果を持ち帰り、姉妹都市交流も絡めつつ今後につなげていきたい。」と抱負を述べられていました。



宮殿と見まごう？ヴェルサイユ市庁舎



ヴェルサイユ市長もご来場(右から 4 人目)

(田中所長補佐 奈良県派遣)